

拡張された場におけるアーキテクチャの「状況」
「状況」のアーキテクチャ「2017」
人材育成事業

十字路口としてのアフガニスタン

移動する物質

2018年2月17日(土) - 3月4日(日)
11:00-19:00 (月曜休館) 入場無料

テーマ1「物質」Transferring Matter: 創造的アーカイブ
プロジェクト1「物質+感覚民族誌」成果発表展

京都市立芸術大学ギャラリー@KCCA

拡張された場における
アートマネジメント人材育成事業
「状況のアーキテクチャー」2017
テーマ1《物質》Transferring Matter: 創造的アーカイブ
プロジェクト1「物質+感覚民族誌」成果発表展

移動する物質 十字路としてのアフガニスタン

拡張された場におけるアートマネジメント人材育成事業「状況のアーキテクチャー」では、
《物質》《生命》《社会》というテーマのもとに7つのプロジェクトを展開しています。京都市立芸術大学が
有する多岐に渡る資料体(作品・楽譜・文献・資料)の「創造的な活用方法」を探り、ジャンルを超えたモノの見方や新たな
価値を創出することを目指した「テーマ1《物質》Transferring Matter: 創造的アーカイブ」の3つのプロジェクトのうちの一つ、
「物質+感覚民族誌」では、半年間にわたり学内外のさまざまな機関や施設でのレクチャーや展示見学ツアー、映像上映会、
本プロジェクトの受講者は、半間にわたり学内外のさまざまな機関や施設でのレクチャーや展示見学ツアー、映像上映会、
セミナーなどに参加しながら、民族芸術学と感覚民族誌についての知見を深めてきました。本展はこのプロジェクトの
成果発表として、1973年に本学教員5名(八木一夫、佐藤雅彦、田村隆照、冬木理沙男、山崎脩)が「彫刻・工芸における
地中海・オリエント意匠の東漸に関する調査」の一環で中近東を横断した際に持ち帰った後で本学芸術資料館に
「アフガニスタン民族資料」として収蔵された生活用品を、新たな解釈と独自の視点で捉えなおして展示します。

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

主催：京都市立芸術大学 助成：平成29年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」



藝道研
GEISHIKEN



関連イベント情報

※参加無料

大喜利ワークショップ

2月24日(土) 13:00-15:00

対象：小学生以下(親子での参加可)
定員：15名(先着順・要事前申込)
※未就学児の参加は要保護者同伴

展示された資料を観察し、何に使う道具なのかを想像して、みんなで説明文を作ります。

十字路茶会

2月24日(土) 15:00-16:00

アフガニスタン人の留学生をゲストに、茶話会を実施します。



本学芸術資料館での作業の様子

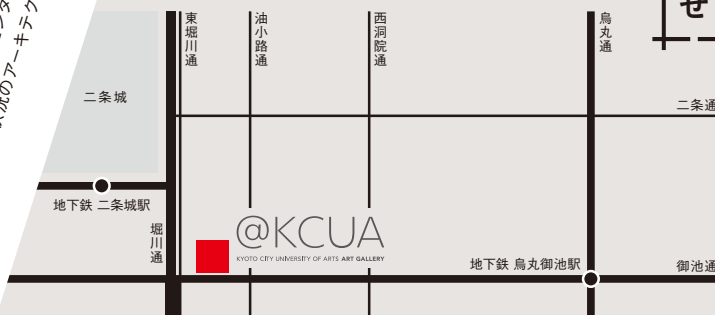
企画：河野愛、中島明日香、増田和子、矢野原佑史(状況のアーキテクチャー2017プロジェクト「物質+感覚民族誌」受講者)
監修：佐藤知久(京都市立芸術大学芸術資源研究センター准教授)、藤田瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA学芸員)
プロジェクトマネージメント：西尾咲子(「状況のアーキテクチャー」シニアプログラムのコーディネーター)

2018年2月17日(土)-3月4日(日) 11:00-19:00 (月曜休館) 入場無料

会場・お問い合わせ

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

〒604-0052 京都市中京区御池押油小路町238-1



○地下鉄東西線「二条城前駅」2番出口より南東へ徒歩3分 ○市バス・京都バス「堀川御池」下車すぐ
Tel. 075-253-1509 E-mail. gallery@kcua.ac.jp http://gallery.kcua.ac.jp